

# "らしさ"を重視して 商空間の設計・企画

中村雅子デザイン事務所

## 新会社 紹介

# 環境情報のパソコン 通信ネットワーク

E-NET事務局(有)ダイナミックプログラミング



中村雅子代表

「らしい、ということがとても大切だし、好きなんです。女性なら女性らしいとか、日本人なら日本人らしさ、といったものです」。

この「らしさ」は仕事の上でもガラスや木、金物等その素材の持つ性格を生かすまま生かすデザインを心掛けていくという姿勢を表

われている。フェリス女学院住居学部インテリアデザイン科の研究室を出て、一時住宅のインテリアコーディネーターに。さらに桑沢デザインのスペースデザイン科で学び、昨年4年半務めた(株)プラスチックスタジオオアシスイッツを退社し、独立。中村雅子デザイン事務所を12月1日に設立した。現在は8割(特に2月)が店舗の設計・企画でMDやユニフォームデザイン、店舗ネーミング、グラフィックまで幅広く対応している。「4年半、プラスチックスタジオに居て、デザインのキャパシティが広がって来たな、と感じています。インテリア・デザインだけでなく、それに関連した分野もどんどん関わって行きたい。幸いに桑沢時代の友人やプラスチックスタジオ、そのブレインの方々等数多くの人に助けてもらっているのだから……。ただ自分の方向性としてこれからはより住空間もしくは人が多く介在する空間のデザインに力を入れていきたいと思っています」。

商空間デザインは現在短いスパンで回転していくことが多く、スクラップ&ビルドは店を造り上げていく側として「つらい」と感じることもあるそうだ。また

「住建築はベースメントとして7割まで造って、後の3割はコーディネーションや各個人のライフスタイル、四季に応じて変化する、といったつくり込み過ぎないおもしろさがあります。その点、商環境は99%まで造り上げてしまう」。そういったデザインのニュアンスの違いを感じながら、着実に自分の仕事の指針をおおらかに決めていっているのも中村さんの魅力のようだ。現在、独立したばかりで大忙しの中村さんだが悩みのたねは「仕事をしたい」と、特に建築、となると現場に行つてすぐい格好したり、ある意味では女性という立場ぬきで「先生」と呼ばれてしまう場合が多いんです。自分自身の女性らしさ、に疑問を感じてしまう」そうだ。4月からはリゾート開発の仕事にも手をのびたいと抱負を語ってくれた。

商業施設や商空間、または新商品開発につれて生み出された地域空間、商品が今までの生活に多大な影響を及ぼすといった例は昨今めずらしくはなくなつて来ている。例えばフロンガス、ゴミ公害、車の排ガス、騒音等一部の地域住民の問題から全世界規模の問題へと派生していつている。それだけに現在、開発(地域、商品等)にたずさ

わる人達にとって環境を加味した企画開発、コンセプトが重要になって来ている。そういった都市環境問題の調査機関である(株)環境総合研究所が20年間の研究実績を基により日常的に考え、行動をするためのパソコン通信ネットワークを研究所内通信から外部ネットワークサービスへと拡大し一般参加できるパソコンネットワークが9月1日から



池田こみち代表

開始している。同都市環境情報パソコン通信ネットワーク「E-NET(イー・ネット)」では、国、地方の行政職員はじめ国公立研究機関、大学、民間コンサルタントの研究者、マスコミ関係者、企業シンクタンク、一般市民らが連日パソコン通信によるアクセスメディア交換や情報提供している。また、会員自身が情報を提供したり、パソコンを使って討論や私信も送れる。環境問題に関するE-NET E-T電子掲示板総合メニューは30種類。大気汚染、環境アクセス、都市計画、まちづくり等さらに項目別に細分化された電子版が登場し、問題を深く幅広く迅速に取り組めるメディアだ。同事務所がホスト局となり、会員が電話によりホスト局をつなぐといつても環境情報が手に入るわけだ。現在全国に会員は200人。去年ぐらいから、地球環境について一般人の関心が高まって来ていることもあり一般グループなども増えて来ているようだ。「環境問題にはやりすぎがあつてはいけないと思ひます。様々な人々のネットワークから問題解決策の糸口が見つかったり、専門家や異業種の人々の考えがパソコンを通じて迅速にいつでも手に入るというのはコンピュータニューメディアの魅力だと思います」(E-NET代表池田氏)。

会費は年会費として行政学校関係者、学生は5000円、その他1万円。法人では行政機関、国立公立研究機関、学校は2万5000円、民間企業、コンサルタン、企業、協会、公団等5万円。連絡先はE-NET事務局(有)ダイナミックプログラミング ☎03(444)8692